

## 第9回調査分析部会 議事録

1. 日時：平成26年1月23日（木） 9：30－11：47

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、青木部会長代理、五百木委員、城山委員、橋本委員、渡邊委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

(3) 説明者

独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）	吉村調査国際部長 光盛調査分析課長 辻参事
一般社団法人日本航空宇宙工業会（SJAC）	宇治技術部長

4. 議事録

(1) 東南アジア、中東及びアフリカ等の宇宙政策について関係機関（JAXA、SJAC）からのヒアリング

JAXAから資料1に基づいて説明を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・東南アジアでは、通信衛星の運用や他国の気象・地球観測衛星のデータの受信・利用が中心であったが、独自の地球観測衛星を持つ国が近年増加。

- ・中東でも、東南アジアと同様、通信衛星の運用や他国の気象・地球観測衛星のデータの受信・利用に加え、独自の地球観測衛星を持つ国が近年増加。

- ・アフリカでは、南アフリカ、ナイジェリア、アルジェリアが宇宙機関を設立しており、通信放送、地球観測分野を中心に活動。エジプトが宇宙機関の設立を計画。また、アフリカ連合（AU）は、宇宙政策及び戦略案の策定に向けたワーキンググループ会合を開催。

SJACから資料2に基づいて説明を行った。説明の概要は以下のとおり。

- ・エジプトでは、通信衛星を運用している Nilesat 社が約1億6千万ドルの売り上げをあげている。

- ・イスラエルでは、宇宙機器産業として IAI 社、Elbit Systems 社、Rafael Advanced Defense Systems 社などがそれぞれ約20～30億ドルの売り上げをあげており、国家宇宙予算（8000万ドル）に比べて高い水準である。また、主要企業の売上の半分が輸出である。

説明の後、以下のようなやりとりがあった（以下、○質問・意見等、●回答）。

○アフリカ連合（AU）が、ワーキンググループ会合を開催しているという中、アフリ

カとの協力を考える際、個別国家との間のみではなく、アフリカ連合（AU）との間で実施することも一案である。（橋本委員）

○アフリカは、African Leadership Conference on Space Science and Technology for Sustainable Development という会議を定期的を開催するなど、全体としてまとまっており、アフリカ連合（AU）との間での協力というアプローチは有効。（五百木委員）

○アフリカ・中東・東南アジア地域は、キャパシティ・ビルディング支援のニーズが高く、各種シンポジウムの中でも支援要請が寄せられており、また日本でも現在研究機関等で若手研究員の受入れを実施中。（中須賀部会長）

## （２）委員の調査分析レポートについて

五百木委員、城山委員、橋本委員から調査分析レポートの発表があった。概要は下記の通り。

- ・五百木委員からは、リモートセンシングに関して欧州における業界動向や ESA(欧州宇宙機関)の産業支援策の状況について報告があった。特に EU（欧州連合）、ESA と産業界の連携並びに施策の一貫性及び継続が重要であると指摘された。

- ・城山委員からは、安全保障及び宇宙産業を中心としたフランス及びドイツの宇宙政策の比較について報告があった。フランスは宇宙を国家主権のツールと位置づけているのに対し、ドイツはグローバル社会の課題解決のツールと位置付けていることが、安全保障や宇宙産業へのアプローチの違いを生んでいることが指摘された。

- ・橋本委員からは、超小型衛星を空中発射で打ち上げる有効性について報告があった。

以上